

どうじょうほうし

道場法師

(石浜)

かみなり もう べー だだりきどう
雷の申し子、百々力童は、その後、仏教の
しゆぎよう なら がんこうじ どうじよう はい な
修業のために奈良の元興寺の道場に入り、名
を「道場法師」と改めました。

がんこうじ かね どう
あるとき、元興寺の鐘つき堂に、毎晩鬼が現
れ、お参りの人たちを困らせました。

たいじ
「よし、わしが退治してやろう。」

どうじょうほうし よる
と、道場法師は、夜になるのを待って鐘つき堂
のぼ かね ひとつ ふたつ
に登りました。そして、鐘を一撞き二撞きした
ところで、はたしてうわさに聞いた鬼が現れま



した。しかし、道場法師は、少しもあわてませ
ん。ただちに鬼の頭髪をつかむと、

「えい！」

とばかりに、鬼を引き倒しました。驚いた鬼は、
恐ろしいほえ声を残して逃げ去りました。その
ひょうしに、道場法師の手に、肉のついた一握
りの鬼の頭髪が残されました。

あくる日、血のしたたりをたどって行くと、
お寺の裏の森の中に入って行き、とある塚の前
で消えていました。そこは、むかし、悪者を処刑
して埋めたところでした。成仏できずに鬼とな

って悪さをしていたものですが、それからとい
うものは、もう現れるようなことはありません
でした。

人々は、道場法師の力の強さに驚いて
「百々法師」と呼ぶようになったといいます。

そのときの肉つきの鬼の髪の毛は、そのまま
元興寺の宝物殿に納められました。また、道場
法師が鬼を退治するときの形相をまねて、「八
雷の神面」と呼ぶ面をつくらせ、元興寺の守り神
にしたということです。